

令和7年松本市議会第2回臨時会
市長提案説明

[7.7.29(火) 10:00]

令和7年松本市議会第2回臨時会を招集しましたところ、議員の皆様にご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

提案議案の説明に先立ちまして、所信を述べさせていただきます。

はじめに、松本市立病院で発生した分娩時の医療事故について申し上げます。

今年4月、お産の際に、お子様が酸素不足の状態となって、「重症新生児仮死」で生まれ、「低酸素性虚血性脳症」と診断されました。お子様、お母様、ご家族の皆様には、病院開設者として改めてお詫び申し上げます。

今回の事故は、以下の要因が重なって起こりました。一つは、赤ちゃんの心拍数を監視・判読する業務について、助産師の認識が不足していたこと。二つ目は、医師と助産師の間で十分な連携ができていなかったこと。もう一つは、病院全体として、安全な分娩を行うための管理体制が不十分だったことであります。

今回の事故の重大性に鑑み、松本市立病院は、先週23日から分娩を休止いたしました。事故の原因や背景を調査した結果を踏まえ、今後、産科と分娩を継続していくかどうかについて、関係者の意見を聴いて判断してまいります。そして、当事者であるお子様、お母様、ご家族の皆様には、誠意を持って、最大限の補償を行ってまいります。

懸案となっておりました、新ごみ処理施設予定地に立地する食肉処理施設の移転問題について、所有者である株式会社長野県食肉公社が先週、移転新築を断念することを正式に表明しました。

松本市島内にある食肉処理施設の市有地周辺は、令和2年11月に松塩地区広域施設組合が新ごみ処理施設の建設候補地に決定したことを受けて、地権者である松本市が再三返還を申し入れてきましたが、施設の親会社であるJA全農長野からは、新たな施設が完成するまで返還期限を延長してほしいと要望を受けてきました。

この度の移転新築断念を踏まえ、双方の間で協議を行った結果、令和10年度末に当該市有地を返還することで合意いたしました。これにより、長らく足踏み状態が続いていた新ごみ処理施設の建設事業は、令和15年度中に施設の運転をスタートできる見通しとなりました。

今後、松本市と長野県食肉公社、JA全農長野の三者により、合意に関する正式な手続を進めるとともに、長野県の安定的な食肉供給体制の確立に協力してまいります。

次に、脱炭素先行地域について申し上げます。

松本市は、2021年以降、脱炭素化を「まちづくりの大原則」と位置付け、条例の制定や松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社の設立などの取組みを推進してきました。

その一環として進めてきた「脱炭素先行地域事業」は、乗鞍地域が「地域裨益型小水力発電」を柱にゼロカーボンパークを目指すものとして、2022年に環境省から選定を受け、3年にわたって地域の皆さんや地元の事業者と取り組んでまいりました。

しかし、資材の高騰や計画期限の制約から、小水力発電の見直しを余儀なくされ、環境省から代替案として示された太陽光発電も、地域主導による当初の計画から大きく乖離し、先進性やモデル性を損なう状況になったことから、この度、脱炭素先行地域の指定を辞退することが適当であると判断いたしました。

今日の建設環境委員協議会で協議を行う予定ですが、交付された国庫補助金の取扱いなどの課題については、環境省と協議した上で改めて報告いたします。そして、乗鞍地域におけるゼロカーボンパークの実現に向けて、引き続き様々な手法を検討してまいります。

小澤征爾永世総監督の生誕90年に当たり、34回目の開催となるOMF2025が、来月11日から開幕します。

今年のフェスティバルでは、小澤さんが生前、OMFの首席客演指揮者に指名した沖澤のどか氏が、ブリテンのオペラ《夏の夜の夢》をお送りします。

小澤征爾生誕90年を祝うBプログラムでは、マーラーの「交響曲《復活》」を、巨匠クリストフ・エッシェンバッハ氏の指揮によってお届けします。

この夏も、クラシック音楽ファンの皆さんはもちろん、大勢の市民の皆さんに、世界レベルの音楽祭を、身近に感じて楽しんでいただきたいと思います。

OMFを開催してきた松本市にとって、目標となる存在とも言えるオーストリア・ザルツブルクを、現地2日の短い滞在期間でしたが、阿部議長とともに訪問してまいりました。

モーツァルト生誕の地として知られ、1920年に始まったザルツ

ブルク音楽祭が世界三大音楽祭の一つとして高い評価を受けている、自他ともに認める「音楽の都」であります。モーツァルトの名を冠した財団と世界有数の音楽教育を実践する総合大学があり、モーツァルトは、街の誇りであるとともに、今なお街を形作る中心的な存在となっています。

今回の訪問では、財団の総裁や大学の学長と会談し、ザルツブルクの歴史と、モーツァルトにまつわる様々な施設や活動について、詳しく深く知ることができました。そして、訪問を契機に、互いに音楽を愛する都市として、子どもや若い世代を中心に交流を積み重ねていくことを確認しました。

ザルツブルク州知事から招待を受けた、ザルツブルク音楽祭のオープニングセレモニーでは、歓迎のスピーチや大統領らの祝辞と並行して、地元のオーケストラによる荘厳な演奏が披露され、音楽の祭典に止まらず、いわば国家行事として開催されていることを肌で感じました。途中、パレスチナ・ガザ地区への攻撃に抗議する活動家が会場に乱入するハプニングもありましたが、出席した人々からは、音楽と政治が密接不可分で、だからこそ音楽を大切にしていける必要があるという強い意志を感じました。

再来月9月末に、100年を超える歴史を持つザルツブルク・マリオネット劇場の公演が、松本市で開催されます。ユネスコ無形文化遺産にも登録されている幻想的な人形劇で、演目は日本人にも馴染みの深い「サウンドオブミュージック」です。

松本市も共催する公演を、大勢の市民、とりわけ子どもや若い世代に鑑賞してもらいたいと思います。そして、今回の公演を土台に、松本とザルツブルクという二つの「音楽の都」の交流と関係が広く深いものに育っていくことを願っています。

幾多の尊い犠牲を重ねた先の大戦から、今年で80年を迎えます。

日本は、過去の一時期、外交的・経済的な行き詰まりを力の行使によって解決しようと、国策を誤り、戦争への道を歩んでいきました。

その結果、国民を存亡の危機に陥れ、戦火を交えた国々や戦場となった国々の罪なき人々に計り知れない損害と苦痛を与えました。

世界を巻き込んで大勢の犠牲をもたらした先の大戦の反省と、以後80年間にわたって不戦の誓いを堅持してきた誇りを胸に、二度と過ちを繰り返すことがないよう、他の国々が同じ過ちを行うことがないよう、世界に非戦と平和を訴え続けることが、今を生きる私たちの使命であると考えます。

松本市は、戦後80周年記念事業として、今年10月に「松本と鹿

児島をつなぐ「特攻から考える平和学習」を、松本青年会議所とともに開催します。高校生以上の若者を中心に８０名を募集し、大勢の特攻隊員が飛び立った鹿児島県の知覧などを巡ります。ぜひ大勢の若者が参加し、若くして散った特攻隊員一人ひとりの想いを現地で直接感じ取っていただきたいと思います。

それでは、ただいま上程された議案について、説明申し上げます。

提案した議案は、予算１件、契約６件の計７件であります。

はじめに、補正予算は、山田地区クライנגルテン整備事業について、交流棟やラウベ棟などの建築実施設計に係る経費の増加や、設計業務の完了を令和８年度中とするスケジュールの見直しを踏まえ、できる限り早期に業務に着手するため、この臨時会において歳出予算の組替えと債務負担行為の設定を行うものであります。

次に、契約案件は、新たな一般廃棄物最終処分場に浸出水処理施設の建設工事を行うもの、土木設備の建設工事を行うものの、請負契約計２件のほか、国が定める労務単価の変更等により、湊東保育園の大規模改造主体工事の請負金額等の変更に伴う議決更正４件をお願いするものであります。

以上、本日提案した議案についてご説明申し上げました。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

(以 上)